

E-8 瀬戸内海島しょ部の生活環境に関する基礎調査

第2報 生活行動と交通手段

広島女学院大短大 ○富士田亮子 桃山学院短大 佐々木ひろみ
松山東雲短大 山口幸恵 大原早苗

目的 本報では第1報に基づき、生活行動（主に、通勤、通学）に最も大きく制約を与えていると思われる交通手段を取りあげ、島内、島外交通（主に旅客）の特性について調査、検討を行なった。

方法 島内、島外への交通手段と頻度、自動車の保有台数、教育機関等の所在地については聞き取り方法を、各家庭所有の乗物と使用目的等については調査票配布方法をとった。調査数 658票、有効数 534票（有効率81%）

結果 (1) 島内交通手段は民営バス、タクシー、または、自家用車、自転車等である。

(2) 中学生以上で通学にバス、自転車、船の乗物か利用されている。

(3) 調査対象家庭の平均自家用車保有率は一戸に一台以上で、通勤に使われることが多い、また、自転車は通学、その他に使われることが多い。しかし、駐車場に関する不満は少ない。

(4) 島外交通手段はフェリーボート、客船が主で、その連絡港は本土側では広島県尾道市、三原市、竹原市、四国側では愛媛県今治市、松山市、また、島しょ間では広島県生口島、大崎上島、愛媛県伯方島である。

(5) 自動車の保有台数の増加にしたがい、乗港が促される傾向である。